

大学教育理念と中期ビジョン

I. 教育理念

学校法人松蔭女子学院は、学院創立 125 周年を迎えた 2017 年に学院モットー「一粒のからし種」を制定した。それと同時に、神戸松蔭女子学院大学のモットーを制定し、「Open Yourself, Open Your Future」とした。

学院モットーは、学生たちが絶えず自分を見つめ直して古い殻を破り、新しい自分を発見することによって個性を確立し、社会に貢献する女性として成長することと、教職員がそれを支援し学生・生徒の成長を促すことを示している。大学モットーは、無意識のうちに自分を閉じ込めてきた殻を破って自らを解放し心を開いて成長していく女性、卒業後の自分の未来を拓く女性となることを期待するものである。

この大学モットーのもと、本学は学則第 1 条に示すように、聖公会キリスト教主義に基づく人格の完成と心身ともに健康な社会人の育成を期して高い学問的教養を授けるとともに、学術研究の場として深く専門の学芸を研究教授することを目的としている。その目的の達成に向けて、大学の教育の特色を、「キリスト教の精神：他者を思いやるキリスト教の愛」を持って、「実践的な教養：深い教養知識と広い実用技術の融合」を学び、「キャリア：個性豊かに生きる自分だけの人生」を切り拓いていく女性を育てることとしている。

II. 学院創立 130 周年に向けた中期ビジョン

1. 2022 年度までの教育方針

上記の教育理念は、大学の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある「キリスト教の愛の精神を基本とした女子教育を通じて、他者への思いやりの心をもって社会に貢献する人材を育成することを目標としている。」につながっている。すなわち、本学の教育は「殻を破り、心を開いて成長する」「自ら未来を拓く」「他者を受け入れ、思いやりの心を持つ」「社会に貢献する」という言葉で示すことができる。

教育理念の実現に向けて、学院創立 130 周年である 2022 年度までの大学の教育方針を、学生に示す言葉の形で以下に示す。

(1) 他者を受け入れ信頼することから出発する

人は自分の力だけで成長することはできない。まず他者を受け入れて信頼することから出発すれば、相手もそれに応じてくれ、良い相互作用が生まれる。

(2) 成長し続けるための土台をつくる

言葉の力は、成長し続けるための土台として最も重要である。コミュニケーションのツールであるとともに、自分自身を見つめ直すため、新しい知識を得るため、考えを深めるために不可欠である。

(3) 自ら未来を拓く力をつける

どのような方向に成長すればよいのかわからないままにただ成長することはできない。社会を知り、夢に向かう道筋を描くことで、目標を設定して努力することができる。夢や目標が途中で変わることはあるが、目標を持って努力した経験とそこで学んだことは次の成長の糧になる。

(4) 学び合い成長する

人は他者とのかかわりの中で成長する。人から学ぶとともに、人に教えることで自身の学びがさらに確固としたものになる。そして、社会において必要となる、主体性を持ちながらチームとして働く力をつけていく。

(5) 思いやりの心を持ち社会に貢献する

思いやりの心を持つとともに、社会の中に積極的に入っていき試行錯誤しながら社会に貢献する力を養う。それは、主体性を持ちながらチームとして働く力を養うことにもつながる。

2. 2022 年度までの目標

(1) 全体目標

2019 年度の入学定員を維持して全学年で定員前後の在学生数とすることで、2022 年には在学生数 2300 名、教育の質の高さで評価される大学であることを目標とする。

(2) 学びの目標設定と学修成果の測定

カリキュラムの体系化と授業での到達目標を示すことが進められてきたが、卒業研究の到達目標を達成できるよう、各科目の到達目標を定めていき、学科における学修成果の測定を行う。

また、主体性を持ちながらチームとして働く力、コミュニケーション力を高めるために授業外活動への参加が望まれる。授業科目の到達目標だけでなく、資格取得や授業外での学びも含めた「学びの目標」を学生に示すことを進めていく。

(3) 学び続けることを可能にする力の養成

ディプロマ・ポリシーの汎用的技能の基本は言葉を理解し表現する能力である。全学共通科目と学科の導入教育科目の連携を一層進めて、読解力と文章作成力の向上を目指す。また、教養を身につけ、自分の考えを表現するためには、座学だけでなく主体的に取り組む学びが不可欠である。グループワークを取り入れた授業やチームで課題を解決していく授業を増やす。

(4) 学び合う体制の整備

語学力・表現力を磨く授業の展開とサポート体制の充実を目指すとともに、授業及び授業外で学び合う仕組みを整備して、授業外学習を促す。学生の学び合いは、ディプロマ・ポリシーの「高度なコミュニケーション能力」「学んだことを地域・社会に還元し、その中で他者と調和して生きていく」の養成につながる。

(5) 学生支援と学内活性化

安心感を持って心を開くことのできる落ち着きあるキャンパスとなるよう、学生支援の方針に基づき学生支援体制を整備・運営する。

他者との協働や各自が主体的に動きながらもチームで課題解決する経験が、ディプロマ・ポリシーの態度・志向性「一貫した責任をもつ経験を通じて、自立した女性として、自己を確立することに努力する」を養うことにつながる。クラブや同好会、学生たち自身が大学を活性化する取り組みをこれまで以上に設けて、快適で活発なキャンパスづくりを進めていく。

(6) キャンパス整備

安心感を持って心を開くことのできる落ち着いたあるキャンパス整備を進める。現在のキャンパスの雰囲気維持しつつ、部分的な増改築で現在の学生の利便性を向上する。2019年度よりキャンパス整備計画の検討を開始し2022年度までに整備する。

(7) 地域貢献の推進と拠点の整備

本学ディプロマ・ポリシーの態度・志向性「学んだことを地域・社会に還元し、その中で他者と調和して生きていくことができる」「身につけた専門的知識を自らのキャリアに生かしつつ、社会に貢献する」を養うために、社会連携・社会貢献に関する方針を作成し、地域連携活動やボランティア、産学連携など社会の中で学生が学ぶ機会を増やして学生の参加を促す。